

1年以上の勤務など要件

厚生省 常勤薬剤師は半数以上

厚生労働省は1月22日、医薬品医療機器等法の薬局認定制度に関連した施行規則を改正する省令を公布した。地域連携薬局や専門医療機関連携薬局の基準では、継続して1年以上勤務している薬剤師を半数以上とすることが要件。地域連携薬局では地域の医療関係者に患者の薬剤使用情報を月平均30回以上報告・連絡を行っていること、専門医療機関連携薬局では過去1年間にわたって癌の専門的治療を提供する地域医療機関と連携していることなどを実績として示す必要がある。改正省令は8月に施行する予定。

改正薬機法の省令では、都道府県による地域連携薬局、専門医療機関連携薬局の基準が盛り込まれた。入

退院時の医療機関との情報連携や在宅医療に一元的・継続的に対応できる地域連携薬局については、薬局開設者が薬剤師に過去1年間地域包括ケアシステムの構築に資する会議に継続的に参加させ、半数以上が地域包括ケアシステムに関する研修を修了していることを求めた。

地域の他の医療提供施設と連携する体制も基準で示した。薬剤の使用情報を地域の医療機関や薬局に報告、連絡できる体制を備え、地域の医療機関に勤務する医療関係者に過去1年間で医薬品の使用に関する情報を月平均30回以上報告・連絡を行った実績が必要とした。

在宅医療での実績についても、居宅等での調剤、情報提供、薬学的知

見に基づく指導を過去1年間で月平均2回以上実施するよう盛り込んだ。

一方、癌に関する専門的な薬学管理で他の医療機関と連携して対応できる専門医療機関連携薬局については、癌患者の治療方針を共有するために、過去1年間で専門的な癌治療を提供する医療機関に対し、患者の医薬品使用に関する情報を連絡・報告した実績があること、医療機関で開催される会議に継続的に参加していることを要件とした。

地域の他の薬局にも患者の薬剤使

用情報の報告・連絡を行い、在庫保管する癌にかかる医薬品が必要な場合には、他の薬局経営者に提供できる体制も求めた。

また、厚生省の基準に適合した団体によって認定された薬剤師を配置し、1年以内ごとに癌に関連した専門的な薬学的知見に基づく調剤や指導に関する研修を計画的に受ける必要があるとした。地域の他の薬局に対しては、薬剤師が癌にかかる研修を定期的実施することとした。

(2021年1月27日掲載)



先日、高齢者に対する薬物療法についてお話を機会があったのですが、あらためて「高齢者」とは何だろうかと思い悩んでしまいました。高齢者という概念は、年齢で区分されることが一般的ですよ。例えば、世界保健機関（WHO）では65歳以上を高齢者と定義しています¹。日本でも65歳以上を高齢者と呼ぶことが多いように思いますが、近年では65歳から75歳までを准高齢者、75歳以上を高齢者とするのが妥当ではないかという提言もなされています（PMID：30760676）。時代の変化とともに健康寿命が延び、既存の定義では高齢者という概念をうまく説明できなくなっているのでしょうか。

集団の平均値としてみれば、令和を生きる65歳の方は、昭和を生きる65歳の人と比べて、健康状態がより優れていることは確かな事実です²。しかし他方で、寝たきりの高齢者、あるいは何らかの障害を抱えて介助なしには生活がままならない高齢者も少なくありません。高齢者



医療法人徳仁会中野病院薬局
青島 周一

これから「薬」の話をしよう

高齢者の薬物療法を考える

の身体、並びに認知機能は、若年層よりも多様であり、同じ年齢であっても健康状態は人それぞれで大きく異なっています。高齢者に対する薬物療法もこのような状況を踏まえる必要があります。

例えば、80歳を超えるような高齢者に対する高血圧治療を考えてみましょう。介護の必要性がなく、認知症などもない80歳以上の高血圧患者を対象としたランダム化比較試験(RCT)では、積極的な降圧療法を行うことで脳卒中が30%減る傾向にあり、死亡リスクも21%減るという結果が示されました（PMID：18378519）。しかし他方で、介護施設に入所している80歳以上の高齢者を対象とした観察研究では、収縮期血圧が130mmHg未満かつ、降圧薬の服用が2剤以上の人では、それ以外の人と比べて、死亡リスクが1.8倍高いという結果でした（PMID:25685919）。80歳を超えるよ

うな高齢者でも、積極的な降圧療法は有用であるというRCTの結果と、降圧薬を減らしたほうが良いかもしれないという観察研究の結果、この違いを皆さんはどう考えますか。

高血圧のような慢性疾患用薬の効果を考えるということは、患者さんの予後を想像することに他なりません。虚弱高齢者では、壮健高齢者に比べて死因が多様化しており、また潜在的に死亡リスクが高いと言えます。したがって、降圧療法による生命予後の改善に対する影響は壮健高齢者よりも小さいのです。むしろ降圧薬の副作用リスクの方が大きいのかも知れません。

*1 <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/alcohol/ya-032.html>
*2 <https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>

「図解 薬理作用」を刷新——新薬の作用メカニズムも一目でわかる！

治療薬マニュアル 2021

監修 高久史麿 / 矢崎義雄 編集 北原光夫 / 上野文昭 / 越前宏俊

- 後発医薬品を含む、ほぼすべての医療用医薬品を収載
- 添付文書に記載された情報をわかりやすく整理し、専門医による臨床解説を追加

web 電子版付

- 様々な条件検索に対応
- 電子版限定コンテンツ「薬物と飲食物・嗜好品との相互作用」

● B6 頁2848 2021年 定価5,500円(本体5,000円+税10%) [ISBN978-4-260-04297-0]



好評発売中



本書購入特典 web 電子版

パソコン(Windows、Mac OS)でも利用可能

全文検索だけでなく、「薬品名」「適応症」「識別コード」などの条件検索に対応

実務実習に最適!